

# 4歳児にみられたダンボール遊びの実態

## The study of the cardboard play of the 4 years old children

高原 和子・瀧 信子\*・宮嶋 郁恵\*\*・矢野 咲子\*

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Ikue Miyajima・Sakiko Yano

キーワード：ダンボール遊び，基本的動作，4歳児，環境設定

### はじめに

日常の身体活動のあり方が，人の健康に生活していく上で重要なことは十分理解できるところである。ましてや，心身の発育発達が目覚ましい子どもにとっては，身体活動の影響はきわめて大きい。したがって，我々大人は，子どもが健やかに育っていくためのよりよい生活環境を整えていく義務がある。

子どもの生活の中心は遊びである。遊びをとおして人として生きていくために必要な知性や社会性，身体性など人としての基本的な部分・基礎を学ぶ。なかでもからだを使った遊びの貢献度は高い。

からだを使った遊びは，健康に生活していく上で欠かせない体力・運動能力を身につけていくばかりではなく，知性や社会性の発達にも良好に働きかける。このようなことから，子どもの生活環境，特に自由に遊べる環境づくりは最も大切である。

我々は，これまで子どものからだを使った遊びの環境づくりを主題として調査・研究を行ってきた。それらの先行研究から，子どもの自由で自発的なからだを使った遊び（運動遊び）の十分な実施こそが，子どもの多様な動きの獲得と体力・運動能力の向上をもたらすと示唆している<sup>1, 2, 3, 4)</sup>。特に，現在，幼児の9割以上が幼稚園・保育所など保育施設を利用する時代にあっては，保育施設における子どもの自由遊びの時間の確保と，保育者の十分な環境設定やその工夫は，重要課題と考えている。

そこで，子どもが自発的に楽しくからだを動かすことができる環境設定の検討を目的に，身近にある素材

を使用する実践研究を計画し，幼児を対象にした「ダンボール」を使用する遊びの実践における分析を試みることにした。実践にあたり，実際に幼児がどのように遊ぶのか観察することを第一の研究と考え，幼児のみで遊ぶことが可能な5歳児を対象とした。5歳児は他の年齢の幼児と比べ，自主創造的に遊びを展開できる年齢であるということが明らかとなっている<sup>5, 6)</sup>。そのため，まず，5歳児を対象に，ダンボール遊びの中で見られた操作・動作の分類から環境設定としてのダンボールの有用性の検討を試みた。その結果，幼児期に必要な基本的動作が十分出現することが確認され，ダンボールを用いた環境設定が，幼児の自発的な運動遊びを促し，多様な動きの経験に有効に働きかけることが示唆された。さらに，ダンボール遊びの特徴として，「移動動作」の中の「回避動作」が多数見られ，「操作動作」と「移動動作」とを組み合わせた複合動作が出現することも確認された<sup>7, 8)</sup>。

また，ダンボール遊びによる動作出現の実態を幼児一人ひとりの動作から分析し，個人による動作の違いについて検討した研究では，幼児一人ひとりに様々な動きを生みだすきっかけをつくることが確認され，幼児の遊びにはそれぞれ特徴があり，それが動作の種類や出現率の違いとして表れることも判った。よって，動作の出現には「遊び方」が大きく影響することが示唆された<sup>9)</sup>。

以上の先行研究から，ダンボールを利用した環境設定は，5歳児においては有効な運動プログラムであることが示唆された。そこで，他の年齢の幼児を対象にして，自発的に楽しくからだを動かすことができる環

\*福岡こども短期大学

\*\*福岡女子短期大学

環境設定の検証を試みることにした。その一つとして本研究では、対象を4歳児とし、先行研究と同様の方法を用い、4歳児におけるダンボール遊びの状況について検証した。

## 方 法

研究方法については、先行研究の5歳児を対象に行ったときと条件を統一した。但し、対象幼児の体格と先行研究の示唆から、ダンボールの大きさの変更を行った。詳細については以下のとおりである。

### (1) 研究対象

幼稚園・保育園・こども園（4園）に通う4歳児を対象に、ダンボールを使用した遊びを実施した。各保育施設の実施人数および使用場所は表1のとおりである。

表1 各保育施設の対象児の人数と使用場所

保育施設	人数	使用場所
A保育園	15名	小体育館
B保育園	18名	保育室
Cこども園	20名	ホール
D幼稚園	13名	プレイルーム

### (2) ダンボール遊びの実施方法（環境設定）

開いた状態のダンボール（横130cm×縦45cm）を幼児の人数分用意した上で、筆者それぞれが各園を訪問し実施した。使用する場所については、広さは特に指定せず、参加する幼児の人数に応じて各園で使用可能な場所とした（表1）。また、環境設定については、開いた状態のダンボールをフロアーに立て、幼児の目にとまるように配置した（写真1）。

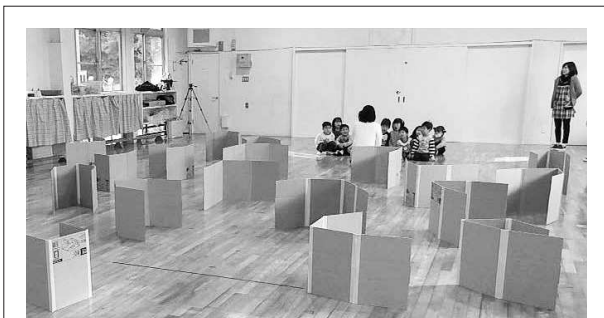


写真1 ダンボール遊びの環境設定と実施前の説明の様子

遊びの時間は30分間で、遊びの内容に関しては、幼児の自主性に任せた。ただし、事前に①30分間自由にダンボールを使って遊ぶこと、②ダンボール以外の物は使わず、切ったり破ったりしないことの2点を幼児らに話した。なお、保育者および研究者（筆者）らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。

実施および撮影は、2017年8月～12月に行った。

### (3) 観察方法

ダンボールを使用して遊ぶ幼児の様子を30分間ビデオに記録した。そのビデオ映像を基に、ダンボール遊びの中でみられた動作を記録した。動作のカウントは、ビデオ映像の中である動作が出現した時点でビデオを停止し、その静止画像を保存するとともにその動作の内容を記録した。ただし、ダンボールを使わない遊びや、失敗などで動作が途中で終わったもの、完了されなかったものについては、データから除外した。

### (4) 観察記録内容

予め記録表を作成し、動作の出現ごとに記録した。記録の内容は、動作出現時刻、遊び（動作）の具体的な内容、動作の分類、ダンボールの形状と位置、仲間との関わりである。また、動作の静止画像は、動作の分類・分析の際の確認に用いた。

### (5) 動作の分類とその項目

動作は、石河ら<sup>10)</sup>、および体育科学センター<sup>11)</sup>が示す「基本的な動作とその分類」を参考にして先行研究<sup>7,8)</sup>で得られた「ダンボール遊びにおける動作の分類」に準じて分類した。

分類項目（カテゴリーと動作の内容）は、

- ①安定性の「姿勢変化・平衡動作」
- ②移動動作の「上下動作」, 「水平動作」, 「回避動作」,
- ③操作動作の「荷重動作」, 「脱荷重動作」, 「捕捉動作」, 「攻撃的動作」
- ④複合動作としての「操作動作と安定性」, 「操作動作と移動動作」

である。

なお、本研究の実施にあつては、事前にそれぞれの

園の保育者と保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、本研究における収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

## 結 果

本研究の遊びの実践では、どの園においても5歳児のときと同様に、幼児は30分間途切れることなく遊び続けることができていた。その遊びの中で出現した動きをカテゴリーと動作の内容で分類し、種類ごとにまとめると、様々なダンボールの操作・適応の動作が出現していることが確認された。カテゴリー別の割合で、安定性7.6%、移動動作19.3%、操作動作25.7%、複合動作47.4%であった。(表2)

表2 4歳児のダンボール遊びにみられた動作の種類

カテゴリー	動作の内容	
安定性	7.6	姿勢変化・平衡動作 7.6
移動動作	19.3	上下動作 4.1
		水平動作 3.5
		回避動作 11.7
操作動作	25.7	荷重動作 12.3
		脱荷重動作 1.2
		捕捉動作 5.8
		攻撃的動作 6.4
複合動作	47.4	操作動作(捕捉)と安定性 1.2
		操作動作(荷重)と移動動作(上下) 1.8
		操作動作(荷重)と移動動作(水平) 19.3
		操作動作(捕捉)と移動動作(水平) 25.1



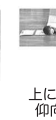

(%)

確認されたそれぞれの分類項目(カテゴリー・動作の内容)の内容は以下のとおりである。

### (1) 安定性「姿勢変化・平衡動作」

安定性の「姿勢変化・平衡動作」とは、位置を変えずにその場で行う動作のことをいう。本研究では、ダ

表3 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:安定性(姿勢変化・平衡動作)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
安定性	姿勢変化 平衡動作	 乗って立つ  乗って座る  上に、うつ伏せ・仰向けで寝る  布団のようにかけて寝る

安定性(姿勢変化・平衡動作):位置を変えずにその場で行う動作

ンボールの上に立つ、座る、(うつ伏せ・仰向けで)寝る、布団のようにして間に挟まって寝る等の動作が出現した。(表3)

### (2) 移動動作

移動動作とは、からだの位置移動をとまなう動作のことをいう。本研究における移動動作は、その方向によって次のような動きが出現した。

#### 1) 「上下動作」

移動動作の「上下動作」は、上下に移動する動作をいう。本研究では、ダンボールをまたぐ、跳び超す、上に乗って跳ぶ等の動作が出現した。(表4)

表4 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:移動動作(上下動作)




カテゴリー	動作の内容	個々の動作
移動動作	上下動作	 またぐ  跳び超す  (1人で・友だちと) 乗って跳ぶ

移動動作:からだの位置移動をとまなうもの  
上下動作:上下に移動する動作

#### 2) 「水平動作」

移動動作の「水平動作」は、水平に移動する動作をいう。本研究では、ダンボールの上を歩く・走る、四つん這いで進む、転がる等の動作が出現した。(表5)

表5 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:移動動作(水平動作)












カテゴリー	動作の内容	個々の動作
移動動作	水平動作	 歩く・走る  四つん這いで進む  転がる

移動動作:からだの位置移動をとまなうもの  
水平動作:水平に移動する動作

#### 3) 「回避動作」

移動動作の「回避動作」は、回避的に移動する動作をいう。本研究では、ダンボールで囲む、ダンボール

表6 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:移動動作(回避動作)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
移動動作	回避動作	 囲む  入る  隠れる  囲いの中で寝る  囲いにフタをする  丸くなって入る  トンネルにして足を入れる  足をを入れて寝る  トンネルにして入る  隙間をくぐる  連結してくぐる

移動動作:からだの位置移動をとまなうもの  
上下動作:回避的に移動する動作

で囲って入る、隠れる、寝る、フタをする、からだを覆って入る、トンネルにして足をいれる、くぐる、床に置いたダンボールの隙間をくぐる等の動作が出現した。(表6)


### (3) 操作動作

操作動作とは、物や人を取り扱う(操作する)動作のことをいう。本研究における操作動作は、その取り扱い方によって次のような動きが出現した。

#### 1) 「荷重動作」

操作動作の「荷重動作」は、(物や人)を持ち上げる動作をいう。本研究では、ダンボールを立てる、重ねる、持ち上げる、抱える、背負う、巻く、並べる等の動作が出現した。(表7)

表7 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:操作動作(荷重動作)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
操作動作	荷重動作	

操作動作:物や人を取り扱う動作  
荷重動作:物(人)を持ち上げる動作

#### 2) 「脱荷重動作」

操作動作の「脱荷重動作」は、(物や人)をおろす動作をいう。本研究では、ダンボールを様々な位置から落とす、おろす等の動作が出現した。(表8)

表8 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:操作動作(脱荷重動作)


カテゴリー	動作の内容	個々の動作
操作動作	脱荷重動作	

操作動作:物や人を取り扱う動作  
脱荷重動作:物(人)をおろす動作

#### 3) 「捕捉動作」

操作動作の「捕捉動作」は、(物や人)をつかむ、握る、捕らえて扱う動作をいう。本研究では、ダンボールを折りたたむ、バタバタさせる、振り下ろす、振り回す等の動作が出現した。(表9)

表9 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:操作動作(捕捉動作)


カテゴリー	動作の内容	個々の動作
操作動作	捕捉動作	

操作動作:物や人を取り扱う動作  
捕捉動作:物(人)をつかむ、握る、捕らえて扱う動作

#### 4) 「攻撃的動作」

操作動作の「攻撃的動作」は、(物や人に)強い力を加える動作をいう。本研究では、ダンボールを蹴る・蹴り上げる、打つ、たたく、引っばる、押す、押しつぶす等の動作が出現した。(表10)

表10 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:操作動作(攻撃的動作)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
操作動作	攻撃的動作	

操作動作:物や人を取り扱う動作  
攻撃的動作:物(人)に強い力を加える動作

#### (4) 複合動作

複合動作とは、安定性、移動動作、操作動作それぞれの動作が2つ以上複合して起こる動作のことで、先行研究において確認された多くの遊び(動き)からカテゴリーとして位置づけた動作である。つまり、ダンボールを扱いながらからだの位置の変化や移動が組み合わされて発生することが多くみられ、そのためにこのカテゴリーが設定された。いわば、操作できる物(ここではダンボール)を扱った遊びが故のカテゴリーとも言える。

本研究における複合動作は、その動作の種類によって次のような動きが出現した。

##### 1) 「操作動作(捕捉動作)と安定性」

複合動作の「操作動作(捕捉動作)と安定性」は、

表11 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:複合動作(操作動作と安定性)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
複合動作	操作動作(捕捉動作)と安定性	

複合動作:安定性、移動動作、操作動作の動作が2つ以上複合して起こる動作  
操作動作(捕捉動作)と安定性:位置を変えずにその場で物を捉えて操作する動作


位置を変えずにその場で物を捉えて操作する動作を指す。本研究では、ダンボールをもって回転する、振り回す等の動作が出現した。(表 11)

## 2) 「操作動作 (荷重動作) と移動動作 (上下動作)」

複合動作の「操作動作 (荷重動作) と移動動作 (上下動作)」は、物を持ち上げながら、上下に移動する動作を指す。本研究では、ダンボールを足先で持ち上げジャンプ、持ってスキップ等の動作が出現した。

(表 12)

表12 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:複合動作(操作動作と移動動作)


カテゴリー	動作の内容	個々の動作
複合動作	操作動作 (荷重動作) と 移動動作 (上下動作)	 <p>足先で持ち上げ、ジャンプして移動する 持ってスキップする</p>

複合動作:安定性,移動動作,操作動作の動作が2つ以上複合して起こる動作  
操作動作(荷重動作)と移動動作(上下動作):物を持ち上げながら,上下に移動する動作

## 3) 「操作動作 (荷重動作) と移動動作 (水平動作)」

複合動作の「操作動作 (荷重動作) と移動動作 (水平動作)」は、物を持ち上げながら、水平に移動する動作を指す。本研究では、ダンボールをからだの前につけて、からだに巻いて (囲って)、脇に抱えて、筒にして、かぶって、抱えて、持ち上げて、頭に載せて、歩く・走る等の動作が出現した。(表 13)

表13 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:複合動作(操作動作と移動動作)


カテゴリー	動作の内容	個々の動作
複合動作	操作動作 (荷重動作) と 移動動作 (水平動作)	 <p>からだの前につけて走る からだに巻いて囲って移動する 脇に抱えて移動する のぞきながら移動する かぶって歩く・走る 抱えて歩く・走る 持ち上げて歩く・走る 頭に載せて移動する</p>

複合動作:安定性,移動動作,操作動作の動作が2つ以上複合して起こる動作  
操作動作(荷重動作)と移動動作(水平動作):物を持ち上げながら,水平に移動する動作

## 4) 「操作動作 (捕捉動作) と移動動作 (水平動作)」

複合動作の「操作動作 (捕捉動作) と移動動作 (水平動作)」は、物を捉えながら、水平に移動する動作を指す。本研究では、ダンボールを片手・両手で持って、前・後に垂らして、足下を囲って、雑巾がけのようにして、(寝て) からだに巻きつけながら、人を乗せて、移動する等の動作が出現した。(表 14)

表14 4歳児のダンボール遊びにみられた動作:複合動作(操作動作と移動動作)

カテゴリー	動作の内容	個々の動作
複合動作	操作動作 (捕捉動作) と 移動動作 (水平動作)	 <p>両手で持って移動する 片手で持って移動する 前・後ろに垂らして移動する 中に入れて移動する 雑巾がけて移動する 寝てからだに巻きながら移動する 人を乗せて移動する</p>

複合動作:安定性,移動動作,操作動作の動作が2つ以上複合して起こる動作  
操作動作(捕捉動作)と移動動作(水平動作):モノを捉えながら,水平に移動する動作

## 考 察

3歳で自分のことは自分で行うための基本が確立し、ひととおりの基本的な生活習慣の自立がみられる。そのことに支えられて生活領域が広がった生活を送った4歳児の発達が目覚ましいものがある。5歳児に比べるとやや心許ないところはあるものの、手先も器用になり、基本的な生活習慣も確立される。

身体的にも全身のバランスをとる能力が優れてきて、2つ以上の動作を並行して行うこともできるようになってくる。片足跳びが巧みになり、スキップができるようになるのも丁度この頃である。

また、仲間といることの楽しさや喜びを実感して、友だちとのつながりも少しずつ強いものとなり、集団での生活も充実してくる。一方で、想像力が広がり、関心が自分を取り巻くすべてに向き、周りのものに心引かれ、探索活動も盛んになる。そのため、単独行動も多くなる傾向にある。もちろん、友だちとイメージを共有して遊ぶことも多いが、時に意思の疎通がうまくいかずトラブルになることも多い。

そのような特徴を持つ4歳児を対象に、先行研究で得られた知見を他の年齢で確認することを目的にダンボール遊びを実践し、その遊びの状況から環境設定の有用性を検証した。

### (1) ダンボール遊びにみられた特徴

動作のカテゴリーで最も多く出現した④複合動作では、様々にダンボールを扱いながら移動する(歩く・走る・転がる・這う・跳ぶ)動作が多く出現し、中でも「操作動作(捕捉)と移動動作(水平)」(25.1%)、「操作動作(荷重)と移動動作(水平)」(19.3%)が多

く出現した。この結果は先行研究と同様で、一人あたり1枚以上のダンボールを用意したこともあり、幼児がダンボールという素材にかかわり、からだの移動をともなった動きを多く出現させた結果である。

次に多かった③操作動作では、手・足・からだを使って「持つ・担ぐ」「上げる」「運ぶ」「押す・引く」「投げる」などの荷重動作が操作動作の約半数を占め(12.3%),次いで攻撃的動作(6.4%),捕捉動作(5.8%)の順に出現していた。本研究では、素材としてダンボールを使用した。したがって、幼児たちはまず、このダンボールを手にとるところから始まり、そこから「持つ・担ぐ」、上に「挙げる」、からだに「巻く」、床に「立てる」など、様々な操作動作でダンボールの扱いを試していた。そのうち、ダンボールの扱いに慣れてくると、「折りたたむ」「バタバタさせる」「振り下ろす、振り回す」等のダイナミックな動きを出現させていった。このように、ダンボールという素材に対して幼児が「扱い方をためす」という行動をとったことが操作動作としての出現数に表れたものと考えられた。一方、脱荷重動作はほとんど見られず、出にくい動作であることが示唆された。

①安定性(7.6%)や②移動動作(19.3%)の出現率が低かったのは、常にダンボールを手などで扱っていることが多いため、みられる種類は少なかった。しかし、床に敷いてその上に「寝る」「座る」「立つ」といった安定性の姿勢変化・平衡動作や、ダンボールの形状に対し「隠れる」「くぐる」「入る」といった移動動作の回避動作は多く出現し(11.7%),全体の動きの種類としては、荷重動作に次ぐ出現率であった。

移動動作の回避動作は、ダンボールを筒にしたり、壁に立てかけたり、または床に広げた状態など、ダンボールが自立する性質を利用した遊び(動作)として4歳児においても随所で見られた。この動作のほとんどは一人でトンネルをつくりその中に入る、筒状に立てた中にはいるといった「隠れる」動作であった。そのうちに他児とともに組み合わせで発展させるケース(家や秘密基地など)も多くあったが、5歳児の時のように長く一緒に遊ぶことは少なかった。

このケースにもみられるように、4歳児の遊びにおいては、5歳児に比べ仲間と一緒に遊ぶがすぐに解消する、といったことが多くあった。一人で遊ぶ➡仲間

と遊ぶ➡一人で遊ぶ、を頻繁に繰り返していた。また、一人で黙々と遊び込む者、一つの遊びは短くどんだん次の遊びへ移っていく者もいた。ここに、4歳児の探索行動が旺盛で、他児とイメージを共有して遊ぶことも好むが、自分の意志が相手に伝わらずに遊びが続かないといった特徴が垣間見えた。

体力的に十分発達した様子は、動作の種類にも表れ、「跳び越える」「またぐ」などの「移動動作(上下)」「(4.1%)」や、「複合動作の操作動作(荷重)と移動動作(水平)」、「複合動作の操作動作(捕捉)と移動動作(水平)」として表れていた。特に、「複合動作の操作動作(捕捉)と移動動作(水平)」は、出現した動作種類の1/4を占め(25.1%),動きの種類としては、一番多く、多彩な動きが出現していた。幼児は、ダンボールをいろいろな持ち方や扱い方を試すような行動が多くみられ、尚且つ、扱いながら移動する遊びを次から次に編み出していた。ここにも何にでも興味を持つ探索行動旺盛な4歳児以降の幼児の特徴がみえる。ただし、その遊びは、一人で行うことが多く、他児と協力する遊び(例えば、「そり遊び」や「電車遊び」等)は少なかった。

これらのことから、ダンボールを使った遊びは、4歳児においても十分な動作の引き出しが期待できることが示唆された。ただし、一つ一つの遊びの継続が短い傾向にあること、仲間とイメージを共有しながら遊び込むことは難しいことが分かり、この点を援助する必要性が考えられた。

## (2) 環境設定としてのダンボールの有用性

4歳児においても先行研究と同様に、ダンボールを使った遊びは、からだを使った多様な動きを引き出すことがわかった。そして、「ダンボール」という素材の特徴が表れた動作が多く出現していることも確認された。このことは、本研究で使用したダンボールが4歳児にとって扱いやすかったことを示すものである。

また、ダンボールを使った遊びは、4歳児においても動きを引き出す有効な環境設定の1つであることが確認され、ダンボールを使用した遊びは、からだの操作や動作を促すための有効な運動・身体活動プログラムであることを示唆するものであった。

平成29年、「幼稚園教育要領」<sup>12)</sup>「保育所保育指針」<sup>13)</sup>

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<sup>14)</sup> 3法令の改訂（または改定）が同時に行われ、社会情動的スキルや非認知的能力の獲得において幼児期の教育・保育が重要であることを示唆する近年の研究を受け、その内容の充実が図られた。特に環境を通じた教育・保育がその基本とすることが明記され、幼児自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるように配慮すべきとされている。また、3法令の改訂に先行して行われた中央教育審議会（平成28年12月21日）<sup>15)</sup>の答申では「環境を通して行う教育」が基本として示され、幼児教育における見方、考え方として、「幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすることである」と整理されている。このことから、幼児の遊びや生活を十分理解し、その幼児理解に基づいた保育者の十分な環境設定（または環境構成）が重要となってきたことが理解できる。

これら幼児教育における環境の重要性に照らし合わせても、本研究におけるダンボールを使った遊びは、十分その役割を果たすものであると考えられた。

## まとめ

本研究では、先行研究と同様の方法を用い、4歳児を対象とし、ダンボール遊びの状況について検証した。その結果、次のことが確認できた。

- ① 手・足・からだを使って「持つ・担ぐ」「上げる」「運ぶ」「押す・引く」「投げる」などの操作動作の荷重動作、「隠れる」「くぐる」「入る」などの移動動作の回避動作がみられ、「ダンボール」という素材の特徴が表れた動作の種類が多く出現した。
- ② 4歳児の遊びにおいては、5歳児に比べ仲間と一緒に遊ぶが、すぐに解消する、といったことが多くあり、探索行動は旺盛で、他児とイメージを共有して遊ぶことも好むが、自分の意志が相手に伝わらずに遊びが続かないといった特徴が遊びにも反映することが分かった。
- ③ ダンボールを使った遊びは、4歳児においても動

きを引き出す有効な環境設定の1つであることが確認され、ダンボールを使った遊びは、からだの操作や動作を促すための有効な運動・身体活動プログラムであることが示唆された。

今後、動きの出現をさらに詳しく検証し、様々な年齢との比較などをおして、幼児のダンボール遊びによる動作発達の特性を明らかにしていきたい。また、ダンボール以外の身近な素材を使用した遊びの検証も実施し、幼児の多様な動きを引き出す有効な環境設定の検討や保育者の工夫について実践的な調査研究で検証していきたい。

## 参考・引用文献

- 1) 高原和子, 角南良幸, 瀧信子: 幼児の体力・運動能力と保育環境・内容との関係. 九州体育・スポーツ学研究. **27**, 84, 2012.
- 2) 瀧信子, 高原和子, 角南良幸, 瀧豊樹: 幼児の戸外遊びと運動能力の関係. 九州体育・スポーツ学研究. **28**, 145, 2013.
- 3) 高原和子, 角南良幸, 瀧信子: 身体活動を取り入れた遊びが幼児の体力・運動能力に及ぼす影響について. 福岡女学院大学紀要人間関係学部. **15**, 63-71, 2014.
- 4) 高原和子, 角南良幸, 瀧信子: 幼児の身体表現としての運動遊びと体力・運動能力との関係. 福岡女学院大学紀要人間関係学部. **16**, 87-97, 2015.
- 5) 高橋真由美: 遊びにおける保育者・子ども関係の変容に関する研究. 教育学研究. **2**, 55-67, 2002.
- 6) 吉田祥子, 森傑: 園児の協働による遊びから見た遊び環境と自主創造的遊びに関する研究－札幌市の市立幼稚園の三歳児と五歳児の比較－. 日本建築学会計画系論文集. **609**, 25-32, 2006.
- 7) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子: 5歳児にみられたダンボールあそびの実践報告. 九州体育・スポーツ学研究. **31**(1), 68, 2017.
- 8) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子: 5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要. **28**, 19-27, 2017.
- 9) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 小川鮎子, 小松恵理子: 幼児の自発的なダンボール遊びにおける動きの内容. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学. **6**, 33-45, 2018.
- 10) 石河利寛, 栗本関夫, 勝部篤美, 近藤充夫, 前川峯雄, 松田岩男, 森下はるみ, 清水達雄, 末利博, 高田典衛: 幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究 I. カリキュラムの基本的な考え方と予備的調査の結果について. 体育科学. **8**, 150-155, 1980.
- 11) 財団法人体育科学センター: 幼児の体育カリキュラム. 株式会社学習研究社(学研), 東京, 20-23, 1986.
- 12) 文部科学省: 幼稚園教育要領(平成29年告示). 2017.
- 13) 厚生労働省: 保育所保育指針(平成29年告示). 2017.
- 14) 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示). 2017.

- 15) 中央教育審議会：幼稚園，小学校，中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申），文部科学省，73-74，2016.

#### 付記

本論文は，「4歳児にみられたダンボール遊びの実践報告」として第71回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。